

説 教

聖日礼拝

北浜チャーチ  
黒田禎一郎

2018年4月22日（日）

主 題：「真に神に喜ばれる生き方」

－特権と責任－

テキスト：ヘブル人への手紙12章25－29節

**はじめに**

- ・人はだれでも、他人に喜んでもらえる力が湧いてきます。  
料理人は自分が作った料理が美味しいと、喜んで食べてくれることが一番嬉しいことであると聞いています。子どもをもつ親や教育者は、子どもが立派に成長してくれることが一番の喜びであります。喜びは人を豊かにさせてくれ、幸いな関係作りとなります。
- ・では、神が喜ばれることはどんなことでしょうか・・・。  
いかがでしょうか。私たちは日々、神にいろいろお願いしますが、神が何を喜ばれるかと考えたことはあるでしょうか。
- ・少し考えてみましょう。多くの子どもたちは「早く大人になりたい!」と思っていますね。大人になれば、何でも「自分の思うようにできる」と思っているからです。しかし成長して大人になれば、確かに自分の思うようにできるようになります。と同時に、自分のすることに対して責任も負わなければならないことが分かってきます。小さい時には見えなかった責任というものが、子どもの成長と共に分かるようになってきます。
- ・それでは、大人はどうでしょうか。最近は少し変わってきたかも知れませんが、多くのサラリーマンは会社で一生懸命働き、部長、役員、社長に上りたいと願っているでしょう。社長になれば、あれも出来るし、これも出来る。送り迎えは専用自動車で、あの込み合った通勤電車に乗らなくて済むでしょう。
- ・しかし、社長には大きな責任があって、自分が下す決断いかんによって、社員とその家族がかかっているわけですから、まかり間違えば、彼らを路頭に迷わしかねません。そう考えると、夜もオチオチ眠っているわけにはいかなくなります。
- ・皆さん！ ここで教えられる点は、すばらしい特権に与れば、責任も伴うということです。特権と責任、それはどんな場合でも同じです。
- ・私たちクリスチャンも、また大きな特権が与えられています。それは大人になるとか、社長になるといったものとは比べものにならない素晴らしいものです。なぜなら、天国へ行くことができるのですから、これほど素晴らしい特権はありません。
- ・天国の素晴らしさを知らない人にとっては、絵に描いた餅かもしれません。しかし、その素晴らしさを少しでも分かったならば、道草を食ったりしないで、一目散に天国へ向かって進んでいくはずです。道草を食う人は、天国のすばらしさがよく分かってない人です。ところが、道草を食っている人がいたので、この書簡の著者はこの書簡を書いたのでした。私たちも道草を食うことがないように、歩もうではありませんか。

- ・今日、私たちは神が与えてくださった特権と、私たちの責任について、神のみ声を聞きたいと思います。2点

### 大切なポイント

#### 1. 神の国に入る特権

- ・ 12:25 語っておられる方を拒まないように注意しなさい。なぜなら、地上においても、警告を与えた方を拒んだ彼らが処罰を免れることができなかつたとすれば、まして天から語っておられる方に背を向ける私たちが、処罰を免れることができないのは当然ではありませんか。
- ・ 「語っておられる方」とは、神です。イスラエルの民は、出エジプトして旅を続けている間、モーセをとおして神のことばを聞きました。しかし彼らは繰り返しそれに従わず、むしろ「つぶやき」、「不平」を言って、神に逆らいました。そのため、成人していた約60万人の中で約束の土地に入ることができたのは、わずか2人カレブとヨシュアだけでした。
- ・ 他のイスラエルの民は、みなその罰として、荒野で死ななければなりません。それは神の言われたことに従わなかったからでした。モーセを通して語られた神のことばに聞き従わなかつた人たちがそうであった以上、神そのものであるイエスの言われたことばに従わなかつたら、どれほど大きな罰を受けるかは明らかです。それが天国へ行くクリスチャンに与えられた責任です。
- ・ 聖書を読めば、神は私たちと交わりをもとうとされるお方であることが分かります。人間の歴史が始まった以来、神はいろいろな方法を通して、交わりを持とうとしてこられました。神は恵み深く、忍耐強く、愛に富むお方です。しかし、それだけではありません。聖なるお方です。聖なるお方ですから、どんな罪をも裁かれるお方です。著者は次のように述べています。
- ・ 12:26 あのかは、その声が地を揺り動かしましたが、このたびは約束をもって、こう言われます。「わたしは、もう一度、地だけではなく、天も揺り動かす。」
- ・ あのかとは、シナイ山で十戒が与えられた時で、山が揺り動かされました。しかし世の終わりには、天地万物がふるいにかけてられるといひます。それは揺るがない御国を残すためです。それが、いつであるかは知らされてはいません。私たちはこのことを念頭において、歩まなければなりません。
- ・ 著者は次のように述べました。  
12:27 この「もう一度」ということばは、決して揺り動かされることのないものが残るために、すべての造られた、揺り動かされるものが取り除かれることを示しています。
- ・ この世の終わりには、地だけでなく天も揺れ動かされます。すなわち作られたものは、全て根本から揺れ動かされ、滅ぼされます。しかし、一つだけ動かないもの、滅びないものがあります。それは神の国です。神の国とは、神が王として主権をもって支配される御国のことです。クリスチャンはこの神の国の一員とされている者です。それが、た

だ信仰の恵みによって与えられた特権です。

- そしてこの特権に与った者には、責任も伴ってきます。特権に与った者が、その責任を果たすならば、神は本当に喜んでくださいます。しかし、心配は不要です。自分は責任なんて、「どうてい果たせません！」と思う方もいるかも知れません。自力で責任を果たすことは大変なことです。
- イエスは次のように言われました。 **マタイの福音書**  
11:30 「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」  
**ヨハネの福音書**  
14:16 「わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。」
- イエスはいつも力の無い私たちと共にいて、共に荷をかついでくださいます。そればかりではありません。毎日の生活で起こるさまざま課題に、「もうひとりに助け主」（聖霊）が、いつまでも共にいてくださいます。では、私たちは神が与えてくださった特権と責任を、もう少し掘り下げてみようではありませんか。

## 2. 神の国に入る責任

- 12:28 こういうわけで、私たちは揺り動かされない御国を受けているのですから、感謝しようではありませんか。こうして私たちは、慎みと恐れとをもって、神に喜ばれるように奉仕をすることができるのです。
- 著者はこの聖句で、真に神が喜ばれる生き方について3点述べています。では、神が喜ばれる生き方とはどんな歩みでしょうか。

### 1) 感謝をもって歩む

- 先ず大切なことは、クリスチャンは、この確固不動の神の国を受け継ぐものとされていることを、しかりと心に銘記することです。受け継ぐとは、それを所有する人となることです。主イエスとともに御国の支配者となるのです。
- 皆さん。そんなことを今まで、考えたことはあるでしょうか。その御国は、決して揺り動かされない御国です。そのことが真に分かると、心の中で自由に生きることができません。安らかな思い、平安を受けることができます。主イエスの大きな犠牲によって与えられたこの恵みの特権を覚える時、私たちは言いしれない感謝で心が溢れてきます。
- 生まれながらの罪人である私たちは、神のふるいにかけてられるならば、到底耐えることはできません。ただ恐れおおのくばかりです。罪をもった被造物が全てふるいにかけて、取り除かれてしまう時、主イエスが造ってくださった御国だけが残ります。そして私たちもその中で迎えられるのです。
- 皆さん。あのノアの箱舟の時代を思い出してください。大洪水が来た時、ノアとその家族だけが助かりました。ノアをあざけていた人たちは、すべていなくなってしまうま

した。とても心痛むことです。

- しかし、私たちは「信仰によって」御国へ入れていただけたことを、先取りし感謝することができるのです。 **ヘブル人への手紙**

**11:1 信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。**

- まだそれが起こっていなくても、神が約束しておられることをしっかりとつかみ、また見ているのです。そして感謝をささげていると、実感がわいてきます。実感がわくまで感謝しないではありません。その逆です。感情をあてにした信仰ではなく、神の約束のことばを信じることです。すると感情はともなってきます。ですから私たちは、この素晴らしい恵みの特権を感謝することから始めようではありませんか。神が喜ばれる生き方とは、どんな歩みでしょうか。

## 2) 慎みと恐れをもって歩む

**12:28 こうして私たちは、慎みと恐れとをもって、神に喜ばれるように奉仕をすることができるのです。**

- 著者はつづいて「**慎みと恐れとをもって**」と、聖徒の生きる姿勢について述べました。神に対する慎みと恐れるがなくなれば、私たちは傲慢になります。神が多くの恵みを与えてくださっても、当たり前という思いになります。感謝がないだけではありません。ちょっとしたことでも、眩きが始まります。
- 神が恵みによって救ってくださったことが、はっきりしなくなると、不平、不満が多くなります。そして苦しいことが起こると、怒りが爆発してしまいます。自分は神に対して直接発したという自覚はなくても、結局は神への反逆となり、兄弟姉妹への愛の欠如という形になって表れます。ですから、兄弟姉妹をすぐに裁いてしまいます。神を恐れかしこむということは、信仰の基本です。
- では、**慎みと恐れをもつとは、どういうことでしょうか。**  
それは神を神として恐れることです。「**慎み**」(aidos:アイドス)とは、「神の前の恥ずべき行為に対し、道徳的に拒否する」、その姿勢のことです。「**恐れ**」には2種類あります。
- まず「**恐れ**」(eulabeia;オイラバイア)は、肯定的な恐れ、つまり畏敬の思いを持つての恐れです。一方、否定的な意味での「**恐れ**」(deilia:デアイリア)は不安、動揺、心配心を持つての恐れです。ここでは前者の肯定的意味での「**恐れ**」(aidos)が用いられています。
- それは神が造り主であること、救い主であることを自覚することから始まります。神を畏敬の思いで恐れなくなると、神を友達でもあるかのように、神に対してなれなれしい態度をとり、信仰からずれて行くようになりかねません。そのようになったら大変です。生きた本当の信仰は、神を恐れかしこむという要素が、その根本にあります。
- 著者はこう言いました。

**12:29 私たちの神は焼き尽くす火です。**

申命記4章には、次のように書かれています。

**4:24 あなたの神、主は焼き尽くす火、ねたむ神だからである。**

焼き尽くすとは、「完全に消滅させて灰にする」という意味です。この聖句から、私たちの神はなれなれしく近づくことのできる神ではありません。私たちの罪の身代わりとして、一人子を十字架にかけて、罪の清算をしてくださったお方です。

- ・キリストの十字架なくして、罪を赦すことのできない神です。ですから畏敬の念をもって拝すべきお方です。聖なる、聖なる、聖なる神です。決してなれなれしく近づくことのできる神ではありません。しかし、イエス・キリストのゆえに「私たちはこの神に近づくことができるようになった」のです。

これが恵みによる特権です。神の尊いご愛に対し、私たちは慎みと恐れをもって歩みたく願います。

### 3) 神に仕え(礼拝)し歩む

12:28 こうして私たちは、慎みと恐れとをもって、神に喜ばれるように奉仕をすることができるようになります。

- ・ある時、弟子たちがイエスに「私たちの信仰を増してください」と願いました。すると、イエスは次のように言われました。ルカ福音書17章

17:7 ところで、あなたがたのだれかに、耕作か羊飼いをするしもべがいるとして、そのしもべが野らから帰って来たとき、『さあ、さあ、ここに来て、食事をしなさい。』としもべに言うでしょうか。

17:8 かえって、『私の食事の用意をし、帯を締めて私の食事が済むまで給仕しなさい。あとで、自分の食事をしなさい。』と言わないでしょうか。

17:9 しもべが言いつけられたことをしたからといって、そのしもべに感謝するでしょうか。

17:10 あなたがたもそのとおりです。自分に言いつけられたことをみな、してしまったら、『私たちは役に立たないしもべです。なすべきことをしただけです。』と言いなさい。

- ・皆さん。私たちもある意味で、しもべのようです。神の前に自分の責任を果たすことがあります。そして主が与えてくださった務めを果たしたら、『私たちは役に立たないしもべです。なすべきことをしただけです。』というべきです。イエスは、「それが信仰を増すこと」、であると教えられました。神はすべてを支配する主権者であり、私たちの働きを知っておられます。

- ・私たちが心の底から願うことは、神に喜んでいただくということです。

人の目を気にしたり、人の評価に一喜一憂するものではありません。ただ神が喜んでくださることを願うことが、一番の基本です。健全な信仰生活を送るために、私たちはいつもそのことを心にしなければなりません。どんなに人から評価を受けても、神から認めただけでないならば、すべては空しいものです。

- ・神に喜ばれるように奉仕するとありますが、「奉仕をする」とは、「仕える」、「礼拝する」という意味があります。私たちの信仰生活は、まさしく神に奉仕する、つまり神を礼拝することです。神への礼拝という信仰生活は、なによりも神へ感謝をささげ、慎みと恐れをもって、神に喜ばれるよう奉仕(礼拝)することが中心なのです。それは無

言の伝道（他の人に神を知せる）のひとつとなるでしょう。

- ・すなわち礼拝も奉仕する信仰生活も、同じ姿勢が求められていることが分かります。ですから、常に神を意識し、神の御前に自分の身を置くことが大切です。神はそのような人を、喜んで受け入れてくださいます。そういう人には、本当の自由があります。

## ま と め

主 題：「真に神に喜ばれる生き方」

### －特権と責任－

- ・私たちは天と地と、そのすべてを造られた神から、測り知れない恵みを受けてきました。神は生まれながらの罪人である私たちを、真に愛してくださいました。そして私たちを御国に導き入れるために、御子イエス・キリストを遣わし、あの恐ろしい十字架につけられ、すべての罪の清算をしてくださいました。救いを完了して下さり、御子イエスを信じる者を神の子としてくださいました（特権）。
- ・そればかりではありません。天の御国に入る者、「いのちの書」の名前が記される者としてくださいました。それは神からの一方的恵みであり、私たちに与えられた祝福です。それが恵みによって与えられた特権です。
- ・恵みによって特権が与えられた聖徒には、地上の生活において責任もあります。神の御国に入る者ですが、その時まで、地上生活で歩む間は果たすべき責任があります。ですから、私たちは今生かされているのです。それは神の子として、ふさわしく生きるためです。
- ・12:28 こういうわけで、私たちは揺り動かされない御国を受けているのですから、感謝しようではありませんか。こうして私たちは、慎みと恐れとをもって、神に喜ばれるように奉仕をすることができます。
- ・今日、私たちは大切なことを学びました。自力で歩む信仰ではありません。イエスとにくびきを負って歩む生活です。そして、もう一人の助け主（聖霊）と共に歩む人生です。私たちが覚えないことは次のことです。
  1. 感謝をもって歩むこと
  2. 慎みと恐れをもって歩むこと
  3. 神にお仕えし（礼拝）歩むこと
- ・神はこのような歩みをする聖徒を、真に喜んでくださいます。

\* God bless you!